

生産者としての一步を踏みしめて

神奈川県立相原高等学校 畜産科学科 3年 金子 純子

ひたむきに農業に向き合う頑固な父と、近所の子供たちからも親しまれる天真爛漫な母は私の憧れです。「私も、父や母のようにになりたい!」と気がつくと、両親のように、地域から愛される農業経営者になることが夢になりました。

私の家は、神奈川県横浜市で、市内で3軒しかない春の七草を主に生産する専業農家です。現在170aの露地畑で、金子農園14代目である父を中心に、4人の従業員とともに経営を行っています。

「父と母のように、農業高校に進学したい!」と農業の道に進むことに決め、夢である農業高校を志望するにあたり、我が家の経営について調べてみました。すると、収入の9割以上を占める七草生産は冬場に労働時間や収入が偏っていると分かりました。さらに、年間売り上げは約4,000万円あるものの、七草の生産時期には150名以上のパートを雇うなど経費も大きく、利益は約700万円。1時間あたりの労働報酬は1,000円を下回っているのが現状です。

年間を通して安定した収入を得るためには、七草の生産以外にも何かに取り組まなければと考え、神奈川県立相原高等学校畜産科学科に進学しました。知り合いの農家さんには、「野菜農家なのに、なぜ畜産科学科に進学した?」と言われることがあります。畜産という違った分野から我が家の経営を見つめることで、何かヒントが見つかると思ったからです。

私は、入学時より畜産部に所属し、乳牛や肉牛あわせて15頭の飼育管理に加え、10a程の畜産部圃場で野菜栽培を行っています。毎日始業前に搾乳や給餌、除糞などの飼育管理や、野菜の栽培管理を済ませてから教室に向かうのが日課です。牛の飼育は、個体に合わせた飼育管理が欠かせない大変なことばかりですが、牛の優しい大きな瞳が私に力をくれ、牛たちのために一生懸命がんばろうという気持ちになります。私たちが毎日搾った牛乳は、卒業生が勤める工場で殺菌充てんされ、相原牛乳というブランドとして週に3回地域の方に販売し、「生産現場を見られるから、安心して購入できる」と大好評です。こういった畜産部での活動を通して、私の目指す生産者としての一步を踏み出せています。そして、週に1度、両親と畑に向かい、野菜栽培の知識や技術を習得するだけでなく、定期的に近くの酪農家さんで研修を行い、現場での技術習得に努めています。このような充実した高校生活の中で、今後の金子農園の経営に関わる大きな目標を3つ見つけることができました。1つ目に安定した野菜生産と直売に力を入れること。2つ目に小規模牧場を立ち上げること。3つ目に食育活動を取り入れることです。

1つ目の直売強化では、東京や横浜のレストランをはじめ、都市部で香草野菜の需要が

年間を通して高いと知り、香草野菜の導入が経営の安定化に繋がると考えました。我が家でお世話になっている種屋さんに栽培手順を教えていただく中で、香草野菜を専門とする農家の方にも出会い、たくさんの技術を教えていただきました。教えていただいたことをもとに、学校でコリアンダーなどの栽培実験を行っています。実験結果により、我が家にも取り入れることが可能か検討を行う予定ですが、害虫被害が少ないため無農薬栽培ができ、体に優しいものを求める消費者にとってはうってつけの品だと考えています。そして、小さな面積でも収穫量が多いため、父に畑を借りて小規模で栽培してみようと考えています。また、直売で固定客を得るためには、常に販売品があることが不可欠です。圃場の回転率を上げるためにも、ビニールハウスの増築が必要だと父を説得し、今年度3棟のハウスが完成する予定です。七草の生産と時期が被らないトマトやトウモロコシの生産拡大を行うことで、年間粗収入に占める直売の割合を現在の380万円の2倍である、約800万円に増やしていきたいと考えています。

2つ目の小規模牧場の設立では、高校で学んだ乳牛の飼育技術を活かし、ホルスタイン種に加え乳脂肪分が高いジャージー種を飼育し、常時6頭の乳牛を搾乳できる50坪程度の牛舎を立ち上げることを考えました。くず野菜に加え、近隣の病院や小中学校からでる白米などの残飯を飼料として活用しながら、低温殺菌牛乳を生産することで、市販の牛乳との差別化を図ります。1年を通して直売所で販売することで、収入の安定化に繋がります。私たちが日々学校で取り組む相原牛乳の例を基に計算をすると、乳牛6頭の1日の平均乳量が約150kgであり、900mlの瓶でおよそ150本を生産する事ができます。牛乳を1本400円で販売し、加工料や飼料代などを差し引いても1日18,000円の利益が生まれ、年間で計算すると約650万円の利益となります。また、チーズなどの加工品を製造販売することで、さらなる利益の向上に期待ができます。さらに、糞尿を堆肥化して野菜栽培にも使用することで、肥料代を削減できるだけでなく、環境への負荷を減らすことができます。

そして3つ目の、食育活動を経営に取り入れることで、大人から子供まで都市部でも命と触れ合える環境を作りたいと考えています。野菜栽培と畜産をリンクさせながら、動物や作物の命の循環を体験してもらい、農業の魅力を分かち合える学びの場を作り上げていきたいです。現在、海外の先進国の多くは100%以上の食料自給率を保ち、自国のみならず他国への食料供給に貢献しています。しかし、日本は、カロリーベースでたったの40%しか食料を自給できていません。土から学ぶ農業教育を行うことで、幼い子供たちの豊かな心を育て上げていくと同時に、自給することの必要性を伝えていくことが重要だと考えています。多くの人の沢山の笑顔が溢れる金子農園を実現し、将来は、作物の播種から収穫、子牛とのふれあいから搾乳までの耕畜を連携した体験に規模を広げ、農業を身近に感じられる職業に変える。また、子供のなりたい職業ベスト10に農業が選ばれるような日本の

社会を築き上げる。それが、私の理想とする農業の姿であり、横浜の地でそれを実現できる農業経営者を目指します。

将来は県外の農業専門学校で酪農を学び、卒業後は生産から加工、販売までの6次産業化が盛んな地で、経営のノウハウを学びたいと考えています。私を農業という世界に導いてくれた両親、私に農業の素晴らしさを教えてくれた高校の先生方に感謝の気持ちを忘れず、私自身の道を歩んでいきます。

はじめは、「農業はもうからない」と私が後継者になることを断固反対していた父でしたが、今では私の行う研究に対して知恵を貸してくれています。私の夢の実現には、20年、30年、いやもっと多くの時間が必要になるかもしれません。それでも私は、自分の選んだ道を迷うことなく真っすぐ突き進んでいきたいと思います。今から300年前、江戸時代後期から農業をはじめた私の祖先は、まさかこんな風に我が家が発展していくなんて思いもつかなかったはず。江戸からはじまった金子農園の未来は、祖父から父へ、そして私に受け継がれようとしています。私は、金子農園15代目として、生産者としての一步を踏みしめながら、これからを歩んでいきます。
